

T&Dダブルブル・ ベア・シリーズ5 (インド・ダブルベア5)

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／株式／特殊型（ブル・ベア型）	
信託期間	2016年9月8日から2018年9月10日まで	
運用方針	信託財産の成長を目指して運用を行います。	
主要運用対象	<p>円建の外国投資信託「バッシ ム・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド - クラスA証券」および親投資信託である「マネーアカウン トマザーファンド」を主要投資対象としま す。なお、短期金融商品等に直接投資する場 合があります。</p>	
	バッシ ム・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド - クラスA証券	<p>主として円建の日本国債を投資対象とします。 JPモルガンチェースバンク N. A. ロンドン支店、またはJPモルガンチェースグループに属する金融機関をカウンターパーティとしたスワップ取引を行います。概ね純資産相当額程度で行うものとします。 スワップ取引を利用して、実質的に日々の基準価額の値動きがインドの株価指数であるNifty 50指数の日々の騰落率の概ね2倍程度反対となる投資成果を目指して運用を行います。</p>
	マネーアカウン トマザーファンド	<p>わが国の国債、公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。</p>
組入制限	<p>投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 株式への直接投資は行いません。 外貨建資産への直接投資は行いません。</p>	
	バッシ ム・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド - クラスA証券	<p>店頭オプション、上場オプション、ETFに原則として直接投資は行いません。 有価証券の空売りは行いません。</p>
	マネーアカウン トマザーファンド	<p>株式への投資は行いません。 外貨建資産への投資は行いません。</p>
分配方針	<p>分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。</p>	

第1期運用報告書（全体版） （決算日 2017年10月10日）

お客様へ

毎々格別のお引立てにあずかり厚く御礼申し上げます。
さて、「T&Dダブルブル・ベア・シリーズ5（インド・ダブルベア5）」は、2017年10月10日に第1期決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。
今後ともより一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

T&Dアセットマネジメント株式会社

〒108-0014 東京都港区芝5-36-7

お問い合わせ先

投信営業部 03-6722-4810

（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

<http://www.tdasset.co.jp/>

設定以来の運用実績、基準価額の推移等

設定以来の運用実績

決算期	基準価額			債券組入比率	債券先物比率	パッシブ・トラスト・インディア ベア・ファンド・ クラスA証券 組入比率	純資産総額
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落率				
設定日 2016年9月8日	円 10,000	円 —	% —	% —	% —	% —	百万円 1
1期(2017年10月10日)	7,997	0	△20.0	—	—	93.8	200

(注) 基準価額および分配金は1口当たり。基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 設定日の基準価額および純資産総額には、当初元本を用いております。

(注) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、債券組入比率および債券先物比率は実質比率を記載しております。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは、日々の基準価額の値動きが、対象とする国の代表的な株価指数の日々の値動きの概ね2倍程度反対となる投資成果を目指して運用を行います。したがって、たとえ正確に運用目標が達成されたとしても、2日以上離れた日との比較においては概ね2倍程度反対の投資成果が得られる訳ではないため比較が出来ないことから、ベンチマークおよび参考指数は設定しておりません。

当期中の基準価額等の推移

年月日	基準価額		債券組入比率	債券先物比率	パッシブ・トラスト・ インディア ベア・ファンド・ クラスA証券 組入比率
	騰落率	騰落率			
設定日 2016年9月8日	円 10,000	% —	% —	% —	% —
9月末	10,763	7.6	—	—	93.0
10月末	10,683	6.8	—	—	92.6
11月末	12,051	20.5	—	—	92.5
12月末	12,146	21.5	—	—	92.8
2017年1月末	10,743	7.4	—	—	90.1
2月末	10,144	1.4	—	—	94.1
3月末	9,525	△4.8	—	—	93.9
4月末	9,200	△8.0	—	—	93.9
5月末	8,745	△12.6	—	—	93.8
6月末	8,879	△11.2	—	—	94.1
7月末	7,976	△20.2	—	—	93.9
8月末	8,171	△18.3	—	—	93.9
9月末	8,338	△16.6	—	—	94.0
期末 2017年10月10日	7,997	△20.0	—	—	93.8

(注) 基準価額は1口当たり。期末基準価額は分配金込み。騰落率は設定日比。

(注) 設定日の基準価額には、当初元本を用いております。

(注) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、債券組入比率および債券先物比率は実質比率を記載しております。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは、日々の基準価額の値動きが、対象とする国の代表的な株価指数の日々の値動きの概ね2倍程度反対となる投資成果を目指して運用を行います。したがって、たとえ正確に運用目標が達成されたとしても、2日以上離れた日との比較においては概ね2倍程度反対の投資成果が得られる訳ではないため比較が出来ないことから、ベンチマークおよび参考指数は設定しておりません。

当期の運用状況と今後の運用方針

■ 基準価額等の推移



設定日：10,000円

第1期末：7,997円（既払分配金0円）

騰落率：△20.0%（分配金再投資ベース）

- （注）分配金再投資基準価額は、設定日（2016年9月8日）の値が基準価額と同一となるように指数化しています。
- （注）分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- （注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- （注）設定日の基準価額および純資産総額には、当初元本を用いております。

■ 基準価額の主な変動要因

「パッシブ・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド - クラスA証券」への投資を通じて、日々の基準価額の値動きが、インドの株価指数であるNifty 50指数の日々の騰落率の概ね2倍程度反対となる投資成果を目指して運用を行いました。Nifty 50指数が上昇した結果、基準価額（分配金再投資ベース）は下落しました。

■ 組入ファンドの当期中の騰落率

組入ファンド	騰落率
パッシブ・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド - クラスA証券	△23.4%
マネーアカウントマザーファンド	△0.1%

■ 投資環境

【インド株式市況】

期初から2016年12月下旬にかけては、インド陸軍のパキスタン領内への越境攻撃による地政学リスクの高まりやトランプ米大統領の掲げる政策の不透明感、米国の長期金利上昇による新興国からの資金流出懸念、高額紙幣廃止の発表による消費減速の懸念などから軟調に推移しました。2017年1月から7月下旬にかけては、米国の金利上昇観測を背景とした新興国からの資金流出懸念や北朝鮮リスクの高まりなどにより一時的な調整局面もありましたが、住宅拡充策を盛り込んだ景気配慮型の新年度予算案や高額紙幣廃止による個人消費への影響が解消されていくとの期待、地方選挙でモディ首相の与党が勝利したことによる改革の進展期待、財・サービス税（GST）が混乱なく導入されたことなどから株価は大きく上昇しました。8月上旬に、RBI（インド準備銀行）の利下げ実施を受け、株価が史上最高値を更新しましたが、その後は北朝鮮リスクが高まったことや、インフラ投資拡大を含む景気対策の発表により、財政赤字拡大が懸念され軟調な展開が続きました。その後期末にかけては、米国や日本など先進国の景況指数が相次いで上振れたことなどを受け、上昇に転じました。



Nifty 50指数について

T&Dダブルブル・ベア・シリーズ5（インド・ダブルベア5）（以下、「本商品」）は、インド インデックス サービスズ&プロダクツ リミテッド（以下、IISL）によって支持、保証、販売又は販売促進されるものではありません。IISLは、明示的にも暗示的にも、本商品の所有者もしくは一般の者に対して、有価証券全般または本商品に関する投資について、またインドにおいてNifty 50指数（以下、「本指数」）が市場全般のパフォーマンスに追隨する能力について、何ら表明、条件付け又は保証するものではありません。IISLのT&Dアセットマネジメント株式会社に対する唯一の関係は、IISLがT&Dアセットマネジメント株式会社又は本商品に関係なく決定、作成及び計算する本指数並びにIISLの登録商標についての利用許諾を与えることです。IISLは、本指数の決定、作成及び計算において、T&Dアセットマネジメント株式会社又は本商品の所有者の要求等を考慮に入れる義務を負うものではありません。IISLは本商品の販売に関する時期、価格の決定、又は本商品を現金に換算する式の決定もしくは計算に責任を負わず、また関わっていません。IISLは、本商品の管理、マーケティング又は取引に関する義務又は責任を何ら負うものではありません。

IISLは、Nifty 50指数の計算及びその元になるデータの正確性や完全性を保証するものではありません。また、IISLは、本指数に含まれるいかなる誤り、欠落又は障害に対する責任を負いません。IISLは、本指数又はそれらに含まれるデータの使用により、T&Dアセットマネジメント株式会社、本商品の所有者又はその他の人や組織に生じた結果に対して、明示的にも暗示的にも保証しません。IISLは、本指数又はそれらに含まれるデータに関して、商品性の保証や適合性について何ら保証するものではないことを明示し、かつそれに関して明示もしくは暗示の保証を行いません。以上のことに関わらず、特定の、罰則的、間接的あるいは結果的な損害（利益の損失を含む）について、仮にその可能性について事前に通知されていたとしても、IISLが責任を負うことはありません。

【国内短期金融市況】

国庫短期証券3ヵ月物利回りは上昇しました。日銀による「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」などの短期金利を低位に抑える金融政策が継続しましたが、日銀の国庫短期証券買入オペ動向に対する不透明感の高まりなどから利回りは上昇し、期初の $\Delta 0.28\%$ から期末は $\Delta 0.17\%$ となりました。

■ 当該投資信託のポートフォリオ

【当ファンド】

期を通じて、「パッシム・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド - クラスA証券」を高位に組み入れました。組入比率は、追加設定・解約や組入投資信託証券の価格の変動による運用資産の増減に伴って、概ね90～94%程度となりました。残りの資産につきましては、「マネーアカウントマザーファンド」およびコールローン等で運用を行いました。

【パッシム・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド - クラスA証券】

主として日本国債等の現物資産へ投資する一方で、JPモルガンチェースバンクN. A.などを相手方とするスワップ取引（元本交換を伴わない）を高位に組み入れ、実質的に日々の基準価額の値動きが、インドの株価指数であるNifty 50指数の日々の騰落率の概ね2倍程度反対となる投資成果を目指して運用を行いました。

【マネーアカウントマザーファンド】

国庫短期証券の利回りがマイナスで推移したため組み入れを見送り、期を通じて組入比率は0%となりました。資産については、全額コールローン等で運用を行いました。

■ 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

■ 分配金

1口当たりの分配金（税込み）は、分配対象収益がないため、見送らせていただきました。

■ 今後の運用方針

【当ファンド】

「パッシム・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド - クラスA証券」の組入比率を高位に保ち、「マネーアカウントマザーファンド」への投資も継続する方針です。

【パッシム・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド - クラスA証券】

主として日本国債等の現物資産へ投資する一方で、JPモルガンチェースバンクN. A.などを相手方とするスワップ取引（元本交換を伴わない）を高位に組入れ、実質的に日々の基準価額の値動きが、インドの株価指数であるNifty 50指数の日々の騰落率の概ね2倍程度反対となる投資成果を目指して運用を継続する方針です。

【マネーアカウントマザーファンド】

足許における比較的堅調な国内外の景気動向などを背景に、日本のインフレ率は上向いていくと予想しますが、依然、基調的なインフレ圧力は弱く、インフレ期待が急速に高まる可能性は低いとみられます。こうした中、日銀の「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」が金利抑制要因として作用することから、国内短期金利は低位で推移すると予想します。

相対的に金利リスクの高い長期債への投資は見送り、短期国債や短期金融商品等を中心とした安定的な運用を行います。

1口当たりの費用明細 (2016年9月8日から2017年10月10日まで)

費用の明細

項目	当期		項目の概要
	2016/9/8～2017/10/10 金額	比率	
平均基準価額	9,797円		期中の平均基準価額です。
(a) 信託報酬	97円	0.989%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投信会社)	(46)	(0.471)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(46)	(0.471)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内での ファンドの管理等の対価
(受託会社)	(5)	(0.047)	運用財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用	2	0.018	(b) その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(監査費用)	(2)	(0.018)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合計	99	1.007	

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 平均基準価額の円未満は切捨て、それ以外の各金額は項目ごとに四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、当ファンドが組入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）が支払った費用を含みません。

(注) 「比率」欄は1口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

売買および取引の状況 (2016年9月8日から2017年10月10日まで)

(1) 投資信託証券

		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
		口	千円	口	千円
外 国 (邦貨建)	パッシム・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド - クラスA証券	114,350	1,142,562	89,840	871,332

(注) 金額は受渡代金。単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
マネーアカウンタマザーファンド	19	20	—	—

(注) 単位未満は切捨て。

利害関係人との取引状況等 (2016年9月8日から2017年10月10日まで)

当期における利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

自社による当ファンドの設定・解約状況 (2016年9月8日から2017年10月10日まで)

設定時残高 (元本)	当期設定元本	当期解約元本	期末残高 (元本)	取 引 の 理 由
千円	千円	千円	千円	
1,100	—	1,100	—	当初設定時における取得およびその処分 商品性を適正に維持するための取得およびその処分
—	820	820	—	

(注) 単位未満は切捨て。

組入資産の明細 (2017年10月10日現在)

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

フ ァ ン ド 名	当 期 末		
	口 数	評 価 額	比 率
	口	千円	%
パッシム・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド - クラスA証券	24,510	187,714	93.8

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	当 期 末	
	口 数	評 価 額
	千口	千円
マネーアカウンタマザーファンド	19	19

(注) マネーアカウンタマザーファンド全体の受益権口数は737,073千口です。

(注) 単位未満は切捨て。

投資信託財産の構成 (2017年10月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
パッシム・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド - クラスA証券	187,714	93.2
マネーアカウントマザーファンド	19	0.0
コール・ローン等、その他	13,762	6.8
投資信託財産総額	201,495	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

資産、負債、元本および基準価額ならびに損益の状況

資産、負債、元本および基準価額の状況

2017年10月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	201,495,101円
コール・ローン等	13,760,871
パッシム・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド - クラスA証券(評価額)	187,714,246
マネーアカウントマザーファンド(評価額)	19,984
(B) 負 債	1,385,555
未払信託報酬	1,359,704
未払利息	22
その他未払費用	25,829
(C) 純資産総額(A-B)	200,109,546
元 本	250,240,000
次期繰越損益金	△ 50,130,454
(D) 受益権総口数	25,024口
1口当たり基準価額(C/D)	7,997円

(注) 設定時元本 1,100,000円
 期中追加設定元本額 1,413,350,000円
 期中一部解約元本額 1,164,210,000円

(注) 元本の欠損
 当期末現在、純資産総額は元本を下回っており、その差額は50,130,454円です。

(注) 1口当たり純資産額は7,997円です。

損益の状況

当期 自2016年9月8日 至2017年10月10日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 4,999円
受 取 利 息	2
支 払 利 息	△ 5,001
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△20,699,203
売 買 益	37,961,894
売 買 損	△58,661,097
(C) 信 託 報 酬 等	△ 1,984,514
(D) 当 期 損 益 金(A+B+C)	△22,688,716
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	△27,441,738
(配 当 等 相 当 額)	(△ 35,723)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△27,406,015)
(F) 合 計(D+E)	△50,130,454
(G) 収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金(F+G)	△50,130,454
追 加 信 託 差 損 益 金	△27,441,738
(配 当 等 相 当 額)	(△ 35,723)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△27,406,015)
繰 越 損 益 金	△22,688,716

(注) 損益の状況の中で

(B) 有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(C) 信託報酬等には、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(E) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

分配金の計算過程

計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)および費用控除後の有価証券売買等損益(0円)より、分配対象収益は0円(1口当たり0円)となりましたので、当期の分配は見送らせていただきました。

分配金のご案内

分配金および分配原資の内訳

(単位:円・%、1口当たり・税引前)

項目	当期
	2016年9月8日 ～2017年10月10日
当期分配金	0
(対基準価額比率)	—
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	0

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

補足情報

マネーアカウントマザーファンドにおける主要な売買銘柄

当期における売買はありません。

マネーアカウントマザーファンドの組入資産の明細

当期末における組入れはありません。

組入投資信託証券の内容

パッシム・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド - クラスA証券

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

分 類	ケイマン籍／外国投資信託／円建
運用の基本方針 主な投資対象	主として円建の日本国債およびスワップ取引に投資を行い、安定的なインカム収益の獲得と信託財産の成長を目指して運用を行います。 主として円建の日本国債を投資対象とします。 スワップ取引等のデリバティブの利用はヘッジ目的に限定しません。
投資態度	①主として円建の日本国債を投資対象とします。 ②J PモルガンチェースバンクN. A. ロンドン支店、またはJ Pモルガンチェースグループに属する金融機関をカウンターパーティとしたスワップ取引を行います。概ね純資産相当額程度で行うものとします。 ③スワップ取引を利用して、実質的に日々の基準価額の値動きが以下の通りとなる投資成果を目指して運用を行います。 【インドア 2x ベア・ファンド - クラスA証券】 インドの株価指数であるNifty 50指数の日々の騰落率の概ね2倍程度反対 資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。
主な投資制限	①店頭オプション、上場オプション、ETFに原則として直接投資を行いません。 ②有価証券の空売りは行いません。 ③純資産総額の10%を超える借り入れは行いません。 ④一発行会社の発行済株式総数の50%を超えて、当該発行会社の株式に投資しません。 ⑤流動性にかかる資産の組入れは15%以下とします。 ⑥運用会社および管理会社は、自己または投資信託受益証券以外の第三者の利益を図る目的で行う取引等は行いません。
決 算 日	6月30日
分 配 方 針	原則として、年1回分配を行います。
投資顧問会社 管理会社	J. P. モルガン・マンサール・マネジメント・リミテッド

《お知らせ》

「パッシム・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド - クラスA証券」は、当ファンドの計算期間中に決算を迎えましたが、2017年10月10日現在、監査済報告書の作成が終了していないため、開示できる情報はありません。

マネーアカウントマザーファンド

運用報告書（全体版） 第15期（決算日 2017年6月12日）
（計算期間 2016年12月13日から2017年6月12日まで）

「マネーアカウントマザーファンド」は、2017年6月12日に第15期決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	信託期間は原則無期限です。
運用方針	安定した収益の確保を目標として運用を行います。
主要運用対象	わが国の国債、公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資は行いません。外貨建資産への投資は行いません。

最近5期の運用実績、基準価額の推移等

最近5期の運用実績

決算期	基準価額		債組入比率	債先物比率	純資産総額
	円	騰落中率			
11期（2015年6月10日）	10,038	0.0	9.6	—	百万円 417
12期（2015年12月10日）	10,038	0.0	54.5	—	1,055
13期（2016年6月10日）	10,037	△0.0	—	—	1,019
14期（2016年12月12日）	10,033	△0.0	—	—	1,383
15期（2017年6月12日）	10,029	△0.0	—	—	922

(注) 基準価額は1万口当たり。

(注) 先物比率＝買建比率－売建比率

(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準 価 額 騰 落 率	債券組入比率	債券先物比率
期首 (前期末)	円	%	%
2016年12月12日	10,033	—	—
12月末	10,032	△0.0	—
2017年1月1日	10,032	△0.0	—
2月末	10,031	△0.0	—
3月末	10,030	△0.0	—
4月末	10,030	△0.0	—
5月末	10,029	△0.0	—
期 末 2017年6月12日	10,029	△0.0	—

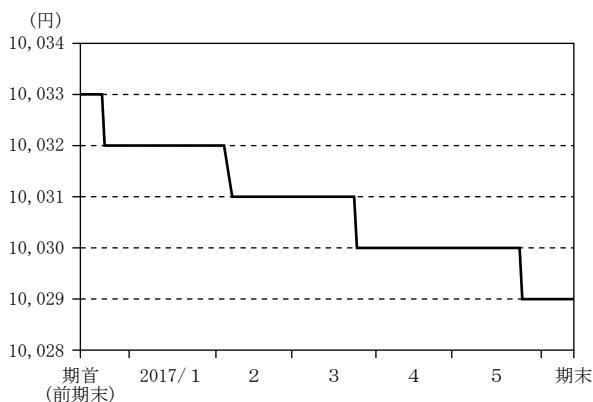
(注) 基準価額は1万円当たり。騰落率は期首比。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

当期の運用状況と今後の運用方針

■ 基準価額の推移



■ 基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首の10,033円からスタートし、期末は10,029円となり下落しました。運用対象であるコールローン等の利回りがマイナスで推移したことから、下落となりました。

■ 投資環境

【国内短期金融市場】

国庫短期証券3ヵ月物利回りは上昇しました。日銀による「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」などの短期金利を低位に抑える金融政策が継続しましたが、日銀の国庫短期証券買入オペ動向に対する不透明感の高まりなどから利回りは上昇し、期初の△0.44%から期末は△0.11%となりました。

■ 当該投資信託のポートフォリオ

国債の利回りがマイナスで推移したため組入れを見送り、期を通じて組入比率は0%となりました。資産については、全額コールローン等で運用を行いました。

■ 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載していません。

■ 今後の運用方針

足許における比較的堅調な国内外の景気動向などを背景に、日本のインフレ率は上向いていくと予想しますが、依然、基調的なインフレ圧力は弱く、インフレ期待が急速に高まる可能性は低いとみられます。こうした中、日銀の「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」が継続、金利抑制要因として作用することから、国内短期金利は低位で推移すると予想します。

相対的に金利リスクの高い長期債への投資は見送り、短期国債や短期金融商品等を中心とした安定的な運用を行います。

1万口当たりの費用明細 (2016年12月13日から2017年6月12日まで)

当期において発生した費用はありません。

売買および取引の状況 (2016年12月13日から2017年6月12日まで)

当期における売買はありません。

利害関係人との取引状況等 (2016年12月13日から2017年6月12日まで)

当期における利害関係人との取引はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

組入資産の明細 (2017年6月12日現在)

当期末における組入れはありません。

投資信託財産の構成 (2017年6月12日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
コール・ローン等、その他	千円 922,789	% 100.0
投資信託財産総額	922,789	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

資産、負債、元本および基準価額ならびに損益の状況

資産、負債、元本および基準価額の状況

2017年6月12日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	922,789,350円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	922,789,350
(B) 負 債	1,832
未 払 利 息	1,832
(C) 純 資 産 総 額 (A-B)	922,787,518
元 本	920,103,268
次 期 繰 越 損 益 金	2,684,250
(D) 受 益 権 総 口 数	920,103,268口
1 万 口 当 たり 基 準 価 額 (C/D)	10,029円

(注) 期首元本額 1,378,631,963円
 期中追加設定元本額 1,941,696,654円
 期中一部解約元本額 2,400,225,349円

(注) 1口当たり純資産額は1.0029円です。

(注) 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本の内訳

T&D通貨トレード新興国社債F (毎月分配型) 円ヘッジコース	72,728,542円
T&D通貨トレード新興国社債F (毎月分配型) 米ドルブルコース	12,370,307円
T&D通貨トレード新興国社債F (毎月分配型) 米ドルベアコース	810,623円
T&D通貨トレード新興国社債F (毎月分配型) ユーロブルコース	513,290円
T&D通貨トレード新興国社債F (毎月分配型) ユーロベアコース	3,218,446円
T&D通貨トレード新興国社債F (毎月分配型) 豪ドルブルコース	70,197,085円
T&D通貨トレード新興国社債F (毎月分配型) 豪ドルベアコース	430,154円
T&D通貨トレード新興国社債F (毎月分配型) レアルブルコース	26,765,645円
T&D通貨トレード新興国社債F (毎月分配型) ルピアブル	636,065円
T&D Jリートファンド限定追加型1402	488,474円
T&Dブル・ベア・ファンド (南アランド・ブル・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド (南アランド・ベア・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド (ブラジルレアル・ブル・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド (ブラジルレアル・ベア・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド (インド株・ブル・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド (インド株・ベア・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド (中国株・ブル・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド (中国株・ベア・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド (原油指数・ブル・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド (原油指数・ベア・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド (米国リート・ブル・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド (米国リート・ベア・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド (マネーボール・コース)	1,694,200円
リビング・アース戦略ファンド (年2回決算コース)	99,632円
リビング・アース戦略ファンド (年4回決算コース)	99,632円
T&Dダブルブル・ベア・シリーズ5 (インド・ダブルブル5)	19,931円
T&Dダブルブル・ベア・シリーズ5 (インド・ダブルベア5)	19,931円
T&Dダブルブル・ベア・シリーズ5 (中国・ダブルブル5)	19,931円
T&Dダブルブル・ベア・シリーズ5 (中国・ダブルベア5)	19,931円
T&Dダブルブル・ベア・シリーズ5 (レアル・ダブルブル5)	19,931円
T&Dダブルブル・ベア・シリーズ5 (レアル・ダブルベア5)	19,931円
T&Dダブルブル・ベア・シリーズ5 (金・ダブルブル5)	19,931円
T&Dダブルブル・ベア・シリーズ5 (金・ダブルベア5)	19,931円
T&Dダブルブル・ベア・シリーズ5 (マネーボール5)	729,293,993円

損益の状況

当期 自2016年12月13日 至2017年6月12日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 407,260円
受 取 利 息	130
支 払 利 息	△ 407,390
(B) 当 期 損 益 金 (A)	△ 407,260
(C) 前 期 繰 越 損 益 金	4,502,815
(D) 追 加 信 託 差 損 益 金	6,023,346
(E) 解 約 差 損 益 金	△7,434,651
(F) 合 計 (B+C+D+E)	2,684,250
次 期 繰 越 損 益 金 (F)	2,684,250

(注) 損益の状況の中で

(D)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

(E)解約差損益金とあるのは、一部解約の際、元本から解約価額を差引いた差額分をいいます。